



6：敦賀港とミライエ 7：緑が鮮やかな植込みのイルミネーション 8：撮影スポットとして人気のハート型のオブジェ 9：市内小学生が作成したペットボトル提灯 10：協賛金への協力を呼び掛ける運営委員 11：写真撮影で来場者をおもてなし

敦賀港イルミネーション

11/3金～12/25日

ミライエ、始まる。

M I R A I E

18時～21時（土・日・祝は22時まで）

たくさんの方の思いが、敦賀港を優しく照らす

「サン、ニー、イチ、ミライエ」のカウンタダウンが終わると同時に金ヶ崎緑地が約45万個の発光ダイオード（LED）の幻想的な光で包まれました。

今年で4回目となる「敦賀港イルミネーション ミライエ」開始当初1万人だった来場者は年を重ねるごとに増えていき、昨年5万5千人を突破。敦賀の冬を代表するイベントに成長しました。

ミライエは「敦賀・鉄道と港」まちづくり実行委員会のミライエ運営委員会が中心となり運営されています。運営委員会は、敦賀商工会議所青年部、（公社）敦賀青年会議所、NPO法人THAP（タップ）、市役所若手職員などの有志ら100人によって組織され、ミライエの企画、期間中の点灯・消灯、協賛金の呼びかけ、会場内での写真撮影のおもてなしなどをボランティアで行っています。

運営委員以外にも多くの市民がミライエに携わっています。

ミライエの設置には市内の高校生が協力し、会場内には市内の小学生がペットボトルで作った提灯「千人千灯」を設置。イルミネーションの燃料には市内各家庭から集めた廃食用油を使用し、ミライエの運営資金を地元企業や来場者に協賛金として協力してもらうなど、様々な形で市民が参加しています。

開始当初からミライエに携わっている宇野精浩さんはその魅力について、「実行委員会や運営委員会だけでイベントをする、というのではなく、みんなを巻き込んで一緒に楽しくできる、ということがミライエの魅力です。おかげさまでいろんな形で市民の方に参加いただいています。子どもたちが作ったペットボトル提灯を家族で見に来て、知り合いに『ミライエ良かったよ』と言ってもらった。そういう形の参加もあります。一人でも多くの方に足を運んでいただいで、一緒に楽しんでほしいですね」と話してくれました。たくさんの方の思いが詰まったミライエ。敦賀港を優しく照らす光を見に行きませんか？



1：ミライエ運営委員会（「敦賀・鉄道と港」まちづくり実行委員会）の皆さん 2：イルミネーション設置作業を行う市内高校生 3：市内小学校にてペットボトル提灯「千人千灯」の作り方を教える運営委員 4：オープニングセレモニーにて合唱を披露する粟野中学校生徒 5：福井しあわせ元気国体・元気大会とミライエの連携企画「はびりゅう光のアート」を制作する親子